

(款) 20衛生費 (項) 10清掃費 (目) 5清掃総務費

◎ごみ処理広域化計画の経費

ごみ処理広域化計画推進事業 【 環境施設課 】

【総合計画上の位置づけ】

都市環境を保全・創造するまち  
生活環境:環境にやさしい省資源・循環型社会を実現しているまち

【事業の目的】

対象 「神奈川県ごみ処理広域化計画」に基づくブロックのうち、横須賀三浦ブロック(横須賀市・鎌倉市・逗子市・三浦市・葉山町)内の2グループ(鎌倉市及び逗子市の2市と横須賀市、三浦市及び葉山町の2市1町)体制における、鎌倉市、逗子市グループの市民等

意図 ごみ処理広域化の実現のため。

効果 ごみの排出抑制と減量化・資源化が図られ、循環型社会が形成される。

【事業の内容】

(1) ごみ処理広域化計画推進事業

- ・焼却施設の広域整備に向けた協議を、引き続き逗子市と行った。
- ・鎌倉市単独で提出した生ごみ資源化施設整備に向けた循環型社会形成推進地域計画は、国に承認された。生ごみ資源化施設建設用地については、前年度に繰越明許を行い、土地所有者との協議を行ったが用地取得ができなかったため、全庁的な検討組織である(仮称)バイオ・リサイクルセンター建設用地検討委員会を設置し、7箇所の市所有地について政策の優先度を含めて検討を行った結果、下水汚泥と生ごみ等を併せて資源化を図る整備手法を前提に山崎浄化センターに建設する方向性が決定された。
- ・施設整備に向けて、処理能力など施設の基本となる計画を策定するため、事業系一般廃棄物にかかる基礎データを収集することを目的に事業系生ごみモニタリング等調査を実施した。

【中事業に含まれる実施計画事業】

広域化計画の推進(3-3-3-⑤)

【事業費】

(単位:千円)

当初予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
6,760	300,482	2,941		297,541

主な支出内訳

- ・ごみ処理広域化計画推進事業
  - 事業系生ごみモニタリング等調査業務委託料 2,911
  - 財団法人廃棄物研究財団負担金 30
  - (仮称)バイオ・リサイクルセンター建設用地購入費(前年度からの繰越明許費) 0



平成21年度事務事業評価シート

創意・工夫・課題等改善状況	課題・問題点	(20年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) ①広域の焼却施設については、早期に整備するため鎌倉・逗子両市の循環型社会形成推進地域計画を策定する必要があった。 ②生ごみ資源化施設整備については、平成19年度末に逗子市がこれに参画しない旨を表明したため、事実上鎌倉市単独で行うこととなった。
	創意・工夫・課題等の改善点 20年度の成果	①逗子市とは、引き続き焼却施設の広域整備に向けて協議を行った。 ②鎌倉市単独で提出した生ごみ資源化施設整備に向けた循環型社会形成推進地域計画は、国に承認された。生ごみ資源化施設建設用地については、関谷に予定していたが用地取得ができなかったため、全庁的な検討組織である(仮称)バイオ・リサイクルセンター建設用地検討委員会を設置し、7箇所の市所有地について政策の優先度を含めて検討を行った結果、下水汚泥と生ごみ等を併せて資源化を図る整備手法を前提に山崎浄化センターに建設する方向性が決定された。
	未解決の課題・問題点	(20年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) ①逗子市との協議では、焼却施設の広域整備に向けた覚書の見直しについての協議が進まない状況の中で、平成20年度末に逗子市から焼却施設についても最低10年間の延命化措置を行う旨が表明されたことから、焼却施設の広域整備は当分の間見込めないこととなり、その対応が求められている。 ②山崎浄化センターバイオマスエネルギー回収施設整備に向け、地元住民のご理解を得ていく必要がある。
	今後の方針(対応・改善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) 生ごみを山崎浄化センターバイオマスエネルギー回収施設において資源化するため、その整備に向けた基本構想、基本計画を策定するとともに、生ごみの分別収集の手法の検討を行う。また当該施設に対する地元住民のご理解をいただくための説明会を適宜開催していく。生ごみの資源化を前提とし、老朽化が進む焼却施設の整備手法について、逗子市との広域化協議の進捗や生活環境整備審議会のご意見を踏まえながら、本市の一般廃棄物処理施設の再編整備についての検討を進め、その方向性を見極めていく。

一次評価(課長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 C:統合又は縮小 E:事業完了 B:現状のまま継続 D:廃止又は休止	A	改善の必要性 有
	「ゼロ・ウェイストかまくら」の実現に大きく寄与する山崎浄化センターバイオマスエネルギー回収施設の整備を進めるとともに、逗子市との広域化協議の状況を踏まえつつ焼却ごみの処理体制についても方向性を出していく必要がある。		
担当課長氏名:	環境施設課長 柿崎 雅之		

二次評価(部長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 C:統合又は縮小 E:事業完了 B:現状のまま継続 D:廃止又は休止	A	改善の必要性 有
	山崎浄化センターバイオマスエネルギー回収施設の整備について積極的に取り組んでいくとともに、逗子市との広域化協議の状況を踏まえながら早期に本市の焼却ごみの処理体制についても方向性を決定していきます。		
担当部名	環境部長	部長名	勝山 洋